

1980年 父島断水日記

延島 冬生（元小笠原村役場職員）

要 約

1980年小笠原諸島父島大渇水期における一水道事業従事者の日記を通し当時の水道管理者と住民の対応をまとめ、今後も起こりうるであろう同様の事態への参考材料とする。

I. はじめに

2017年、小笠原諸島父島は前年から少雨で渇水状態が続き、海水淡水化装置の本格導入の後、大雨があり給水制限は解除された。1980年（昭和55）の大渇水以来の給水危機であった。小笠原諸島は異動する公務員等が多く、1980年当時を知る島民も少なくなっているため、当時小笠原村役場建設水道課に配属され給水制限作業に従事した者の日記を表すことは意味があると考え整理再現する。併せて、同課保存資料などを参照し、まとめを付した。

II. 父島断水日記 1980年（昭和55）9/9～11/22

- 凡例
1. 見出しを適宜つけた。
 2. 給水制限に関する箇所を主に整理抽出した。
 3. 水道管理者は「断水」、「給水制限」と言わず「制限給水」と言い、「断水」、「制限」という言葉から受ける島民の印象を和らげようとした。管理者による表現はそのままとした以外は通常の表現をしている。
 4. *印 原文等を注記で補った。

夜間 8H 断水（22:00～06:00）1980/9/9～1980/9/9/28 第2次*制限給水

* 第1次制限給水は、8/5～（小笠原村建設水道課、1980）、本管バルブ操作による減圧で使用量減少を期待するもの。

1980/9/9（火）曇、強風

- ・ 台風の影響で風ばかり強く、雨はさっぱり。
- ・ ははじま丸*、*2、往復。

- ・ 今日農業委員会第 1 回総会、母島から委員来る。
- ・ 今日から夜間 8H 断水 (22:00 ~ 06:00) *3 だが、23:30 位までいる。
- * 初代ははじま丸 302t, 定員 91 名、14 ノット、父島母島間片道 2 時間 20 分
- *2 村役場と同母島支所との文書交換便 (トランク) 担当は総務課であるが、手が回らないとのこと
で建設水道課の担当、建設係が行っていた。船便に合わせ、土日祝日も対応し、事務職員 1 名の職
場で私の担当。
- *3 第 2 次制限給水開始。

1980/9/10 (水) 風強、曇、晴

- ・ 農業委員帰る。風はまだ強い。突風性、波もあり。
- ・ 夜、断水作業のため、21:30 役場に行く。22 時 5 分前に出勤。第 1 班、班長はアーサーさん*、班
員は私一人。支庁*2 前、裏、電電*3 前、東町と栓を止めて行く。作業は約 30 分、時間は左程かから
なかった。
- * 村政確立 (1979 年) (延島、1999a ~) 後も、多くの東京都派遣職員・併任職員により村役場の運
営が行われていた (表 1)。
- *2 東京都小笠原支庁旧庁舎
- *3 現 NTT 局舎前

1980/9/11 (木) 晴、風、波あり

- ・ 朝、05:30 起きて断水開けに行く*。既にアーサーさん*2 がやってあって、1ヶ所残すだけ、すぐ
終る。朝は明るいし、開けるだけだから速い。
- * 8 月上旬便で出産する妻と 2 人の子を内地 (延島、1999d ~) に連れて行き、清瀬職員住宅で单身
生活をしていた。支庁食堂を利用することもできたが自炊した。
- *2 野澤信行職員の通称。

表 1 小笠原村職員配置表 (一般職) (抄) (昭和 55 年 10 月 1 日)

区 分	派遣職員		固有職員			併任職員		
建設水道課	課長 佐々木 純	建設係	係長	主事	技師			
			古橋雷太	延島冬生	篠田千鶴男			
		上下水道係	係長	技師	技師	技師	技師	技師
			中嶋 弘	荒川博明	三橋登志夫	善方孝則	小関和夫	久保寺 隆
					主事	主事	主事	
					瀬堀エーブル	野沢信行	森川昌明	

出典 (小笠原村、1980d)

延島：1980年 父島断水日記

1980/9/12（金）曇、夜強雨

- ・ 夕方、持丸村長*がダム*2を見に行きたいと言うので上下水道係担当とランクル*3で案内。水深計を持っていく。村長は今朝測って毎日報告を受けているのに自分の目の前でやらせないとだめな（納得しない）ようだ。
- ・ 夜、ザアザア降り出す。雨にずぶぬれになりながら栓止め、非常に奇妙だ。待望の雨ではあるが。
- ・ 波まだあり、ははじま丸欠航。

* 村政確立後初代小笠原村長 持丸克己

*2 時雨 [しぐれ] ダム

*3 公用車、トヨタ製四輪駆動車ランドクルーザーの通称

1980/9/13（土）晴*

- ・ 今朝はすっかりと晴れて青い空。開栓のあと、アーサーさんと降雨量を見に行く*2。29.4mm。母島は昨日 60mm 降ったという。父島はトコトン雨に見放されている。

- ・ おがさわら丸*3 3:50、同じく ははじま丸も入港。

- ・ 夜半、小雨

* 土曜日でも開庁していた。

*2 扇浦浄水場の雨量計

*3 初代おがさわら丸（3540t,20.7ノット、定員 1041 名、東京父島間所要時間 28 時間）

1980/9/14（日）晴

- ・ 10～12時迄、村民会館*。明日の敬老の日の集会の準備。

- ・ 夜、断水作業。

* 父島村民会館、小笠原諸島返還後作られた地域福祉センターで、奥村現保育園奥にあった。

1980/9/15（月）晴・祭日*

- ・ 朝、開栓作業後、寝てしまって、目覚ましが一時間近くなりっぱなしだったようだ。

* 敬老の日

1980/9/16（火）晴

- ・ 今日から断水箇所が変わる。清瀬都住（延島、1999b）1～3、郵政公舎、支庁長公舎*。アパートは各屋上の蓋のカギを開けて*2屋上のバルブを開ける。ハンドルを 20 回位回す*3。疲れる。

* 現道の清瀬職住構内道路入って直ぐあたりに、道路は行く止まりで後方の一般職員住宅とは隔離し

た 1 戸建てがあった。

*2 その後鍵の開閉はせず、蓋を閉じればよいとされた。

*3 5 階建陸屋根屋上にある高架水槽のバルブを閉め断水時間中に確実に水が使えなくするため。5 階階段壁に取り付けてある鉄製梯子を登りハッチを開け、屋上に出、そこに張り巡らされた蜘蛛の巣状アンテナ線をまたぎながら屋上ハッチと高架水槽の間を往復した。当時は、TV も無く夜間内地の中波ラジオ番組を聞くため入居者各自が屋上から自室までアンテナ線を引いていた。

1980/9/17 (水) 晴

- ・ 朝、5:30 起床。寝ぼけ眼でバルブ開けに行く。バイク*の鍵をもってこなかったので、自転車で回る。支庁長公舎は、昨日出張で不在なので開けず。
- ・ 2H 遅刻。
- * ホンダスーパーカブ 50cc 中古を所持、四輪車は所持せず。

1980/9/18 (木) 晴*

- ・ 5時から 1H 勤務。6時過ぎに帰ると、もう暗い。
- * 断水作業、記載なし。

1980/9/19 (金) 晴*

- ・ 台風の影響、東京もなさそう。10:00 におがさわら丸出港したという。
- * 断水作業 (断水時間 22:00 ~ 06:00)、記載なし。

1980/9/20 (土) 晴

- ・ 午後、洲崎*の採石場*2と自動車練習場*3で大型特殊車、村で新規購入したもの。建設係二人一緒に古橋係長に教えてもらう。練習場の方は、安協*4の人が、普通車の人が驚くからだめだという。
- ・ 夜、断水作業。月が出ていて明るかった (月齢 11 日)。
 - * 洲崎 [すさき]
 - *2 飯森山 (延島、1998 ~) を削る村営採石場があった。
 - *3 旧日本海軍飛行場跡に自動車練習場兼試験場が作られ、2年に一度警視庁交通部から試験教官が来て、自動車免許試験を受けることが出来た。試験車は基準を満たしていれば認められたので、各自持込で練習車が試験車となった。
 - *4 あんきょう、小笠原村交通安全協会の略。

延島：1980年 父島断水日記

1980/9/21（日）晴天、暑

- ・ 05:30 起床。開栓作業。
- ・ ははじま丸出航。
- ・ 着のははじま丸の交換便、すっかり忘れていた。夜、行ったら、ははじま丸船員は海運に預けたという。

1980/9/22（月）晴、暑

- ・ また夜のバルブ締め、疲れる。

1980/9/23（火）祭*、暑

- ・ 朝、バルブ開け。
- ・ 9:00～は洲崎の自動車練習場で受験者全員集って石ならべ、縄のくぎ打ちなど、暑い中をやった。疲れた。
- * 秋分の日

1980/9/24（水）晴

- ・ 夜、バルブ締めから帰って寝ていたら電話*に起こされる。義姉から電話で男の子誕生。よかった。
- * 電話は交換手経由で内地と繋がるが、6回線と少なくFAXは未だ無かった。

1980/9/25（木）晴

- ・ 昨夜少し雨が降ったのか、屋上がぬれていた*。
- ・ 夜、役場へ行って、明日の検針の準備ができているかどうか確認。
- * 朝の開栓作業時の様子。

1980/9/26（金）晴

- ・ メーター検針*、暑い。断水の割りには使用量減っていない。
- ・ 夕方、洲崎へ行くが、指導員の古橋係長が鍵をまちがえたので戻って来る。
- ・ 検針カードのチェック。
- ・ 夜のバルブ締めの時、しゅう雨、ぬれたが作業が終わったらすぐに止んだ。皮肉。
- * 水道メーター検針は、課長・浄水場当番2名以外の職員全員で手分けて実施、約600件。

表 2 東京都小笠原支庁職員配置表 (抄) (昭和 55 年 8 月 1 日)

副参事	
副主幹	北木 靖

出典 (東京都小笠原支庁、1980c)

1980/9/27 (土) 晴

- ・ 朝、バルブ開け。
- ・ 午後、洲崎で大特*の練習。直線がぶれる。もう少し練習を要する。
- * 大型特殊車輛の略。

1980/9/28 (日) 曇、風

- ・ 風が強く、ははじま丸欠航。出航したが戻って来た。
- ・ 午後、洲崎の練習場へ行くが、すっぽかさ。帰ってくる。
- ・ 台風の接近が予想されるので、バルブ作業は中止。

1980/9/29 ~ 1980/10/8 昼間断水開始, 夜間断水強化, 10 → 11 時間断水

1980/9/29 (月) 曇、風 *

- ・ 台風 16 号、大型、風ばかりで雨はさっぱりだ。父島は見放されている。
- ・ おがさわら丸出航延期。
- ・ 船はすべて離岸して沖がかり*2。
- * 断水作業 (断水時間 8 時間 22:00 ~ 06:00)、記載なし。
- *2 栈橋に接岸している船舶が台風避難のため湾内の係留ブイに繋いだりして停泊していること。

1980/9/30 (火) 曇、一時晴、強風 *

- ・ ははじま丸欠航 強風で扇浦のメリケンマツ*2の枯木が電柱のトランスを落としそうになった。支庁土木課、前田道路なども出て作業*3。
- ・ 午後、村議会はじめて傍聴する。
- * 断水作業、記載なし。
- *2 モクマオウの小笠原方言 (延島、2010)
- *3 当時、戦前 2 村あった父島を一島一集落復興とし、大村 (東町、西町)、清瀬、奥村を集落地域と呼び、公共サービスを限定していた。扇浦浄水場と亜熱帯農業センターは、発電所から電柱を建て、自家用電気を使っていたので、電柱、電線の保守・管理も自前であった。

延島：1980年 父島断水日記

1980/10/1（水）晴、風

- ・ 今日から冬時間。昼は1H。夕方4.5に終業*。
 - ・ 朝バルブ開けてから、ははじま丸見送る。
 - ・ おがさわら丸、二日遅れて出航。
 - ・ 母島予算要求書を持って来る。
 - ・ 夜、バルブ締め。
- * 夏は8:00～12:00, 13:30～17:00 昼休み1.5H。

断水時間 10時間 14:00～16:00, 22:00～06:00

1980/10/2（木）晴、風

- ・ 今日から昼間の断水に入る。午後2～4時迄*。
- * 断水時間 10時間 14:00～16:00, 22:00～06:00

1980/10/3（金）晴、風*

- * 断水作業、記載なし。

1980/10/4（土）晴、強風*

- ・ 午後、昼のバルブ締め。
- * 水事情のお知らせ（小笠原村、1980a）
- 父島は時雨ダム完成（昭和51年3月）以来初めての水不足に見舞われています。8月5日に第1次制限給水を開始してから、もう2カ月近くになりますが、期待された降雨がありませんでした。そのため、…解除の見通しはついておりません。
- 10月4日現在のダム貯水量は、…父島は22%です。母島は78%となっており安心です。

1980/10/5（日）曇、強風

- ・ 朝バルブ開け、赤間前*、東電、電々。
 - ・ ははじま丸、今日は欠航。強風が吹きまくっている。
 - ・ 洲崎へ行って、ラインテープ引き、そのあとAさんに教習*2。いそいで戻って、カップラーメンを食って、
 - ・ 清瀬アパート他のバルブ締め。2時～、4時前に開ける。開け閉めがあつという間だ。
- * 赤間建設前（現清瀬橋奥村側空き地）

*2 普通自動車免許所持者は、特に登録審査も無く指導員になることが出来た。私は前回、1978 年父島での試験で普通自動車免許を取得した。

1980/10/6 (月) 晴 *

- ・ ははじま丸出航。
- ・ 課長*2 は村長と AU85 特務艇*3 で母島へ。
- * 断水作業、記載なし。
- *2 10/1 付で建設水道課長異動、母島挨拶回り。
- *3 海上自衛隊父島分遣隊配属の艦艇

1980/10/7 (火) 晴

- ・ 断水作業、夜 9 時、赤間前、電々前*。
- ・ 夕方、洲崎で大特の練習。スピードがだせない。真暗になると普通車はいなくなる。
- * 断水時間 11 時間 14:00 ~ 16:00, 21:00 ~ 06:00

1980/10/8 (水) 晴

- ・ 朝バルブ開け。
- ・ 午後、古橋係長に代わりバルブ作業、職員住宅*、たっぷり 20 分かかった。
- ・ 夕方、上下水道係員の免許練習車に同乗。
- * 清瀬職員住宅 1-7 号棟、教職員住宅。1-3 号棟は 4 階建て屋上に高架水槽、4 号棟はプレハブ 2 階建て 2 世帯背中合わせの住宅が現 8 号棟前広場隅に 6 戸あった。

1980/10/9 ~ 1980/10/18 断水 11 → 15 時間

1980/10/9 (木) 晴、暑し *

- ・ 今日納付書配り*2。
- ・ 大特、夕方、洲崎で練習。
- * 断水作業 (断水時間 11 時間 14:00 ~ 16:00, 21:00 ~ 06:00)、記載なし。
- *2 上下水道料金納入通知書兼請求書 (3 連)、毎月検針後作成、翌月 10 日頃配布。

1980/10/10 (金) 晴

- ・ 体育の日、休み。自転車 3 台、バイク 1 台洗う*。

延島：1980年 父島断水日記

- ・ 夜、バルブ締め。
- * 集合住宅の足洗い場栓は止めなかった。

1980/10/11 (土) 晴*

- ・ 午後、村民会館で車受験者の受付、適性検査。そのあと、すぐ洲崎で試験、大型12人受験。夕方発表、4人失格。建設係は二人とも受かった、よかった。
- * 断水作業、記載なし。

1980/10/12 (日) 曇

- ・ バルブ操作。2時～4時。その間は役場で事務をとる。

1980/10/13 (月) 晴、曇

- ・ ははしま丸、すごい風と波の中を母島へ往って来る。近くにあった熱低は父島の西を通り過ぎてから台風20号になったとラジオで聞く。
- ・ 夜、バルブ操作。9時だと夕方、帰ってから食事してあと片付け、風呂わかし等忙しい。

1980/10/14 (火) 晴*

- ・ 漁船に船舶給水*2,*3。漫画*4に出て来る田子の鰹船だ。
- ・ 台風は去ったというのにすごい波。潮風が吹いて雨のようだ。風害の次は塩害か。
- * 断水作業、記載なし。
- *2 青灯台と二見桟橋にある2ヶ所の船舶給水設備は、本来小笠原支庁港湾課管理のものであるが、供給水量管理のため村政確立後も建設水道課が管理していた。おがさわら丸は内地で、ははしま丸は母島で給水してもらっていた。
- *3 台風があると小笠原諸島近海で操業していた漁船は二見港に避難、青灯台に接岸していた。
- *4 (青柳、1975-1986)

1980/10/15 (水) 晴、波*

- ・ 台風は去ったというのに、すごい波が役場裏*2へ押し寄せて来ている。
- ・ 扇浦方面は霧雨が降っている見たいだが、潮が吹き上げているのだ。
- * 断水作業、記載なし。
- *2 現ビジターセンターあたり。旧米軍診療所を使っていた小笠原村診療所が清瀬に移転した後、内部を改装して役場庁舎とした。

10/15 ～第 3 次制限給水 断水時間 15 時間 10:00 ～ 16:00, 21:00 ～ 06:00

1980/10/16 (木) 晴

- ・ ははじま丸で助役*、課長母島へ。
 - ・ バルブ締め。昼 10 時～ 16 時は長い*2。うっかり忘れそうになる。夜、バルブ締め。
- * 安藤光一助役
- *2 10/15 ～第 3 次制限給水。断水時間 15 時間 10:00 ～ 16:00, 21:00 ～ 06:00 となる。

1980/10/17 (金) 晴、にわか雨

- ・ 朝バルブ開けのあと、寝た。10 時頃雨の音で眼が覚める。半休*。朝、バルブ開けの時に雨にぬれたので、10 時頃迄降っていたのかと思ったが、そうではなく、それぞれにわか雨だったらしい。がっかりだ。
- * 4 時間の年次有給休暇として事後処理

1980/10/18 (土) 晴*

- ・ 予算提出期限だが、すぐに出来そうにない。簡水*2 予算案の見なおしをしているが、青天井の要求書だ。午後もチェック。
 - ・ ははじま丸で助役、課長戻る。
- * 断水作業、記載なし。
- *2 小笠原村簡易水道事業特別会計

1980/10/19 ～ 1980/10/28 断水 15 時間 10:00 ～ 16:00, 21:00 ～ 06:00

1980/10/19 (日) 晴

- ・ 昼のバルブ操作*、その間に、し尿関係*2の予算書チェック。
 - ・ 夜もバルブ操作。今日は忙しかった。
- * 断水時間 15 時間
- *2 下水道事業、東京都下水道と同じ基準で汚水処理しているが、会計上、一般会計・衛生費・し尿処理費とされていた。

1980/10/20 (月) 晴

- ・ 朝バルブ開け、眠かったが寝たら起きられないので朝起きている。
- ・ 予算書提出、「簡水」と「し尿」。「土木」*はまだ出来てない。

延島：1980年 父島断水日記

- ・ 昼前、時雨ダム、境浦ダムへ行って来る。後者は道が急でヘアピンカーブの連続。水はげっそり減っていた。

* 一般会計土木費と建材事業特別会計（採石事業）

1980/10/21（火）晴*

- ・ また暑さのぶり返しだ。日射しは強い。風はさわやかだが。オガサワラゼミがにぎやかに鳴く。

* 断水作業、記載なし。

1980/10/22（水）晴

- ・ 昼間のバルブ開け閉め、10時～4時だと忘れそうになる。
- ・ 夜は村民会館で新聞*を讀んでから役場へ行く。バルブ締め。
- * おがさわら丸で一便分まとまって届く既に古新聞となっているもの。

1980/10/23（木）晴

- ・ ははしま丸出入港。
- ・ 朝バルブ開け。
- ・ 今日から予算ヒアリング。簡水の歳入歳出からはじめる。時間がかかる。

1980/10/24（金）晴*

- ・ 今日ヒアリング続く。し尿について。午前と午後。

* 断水作業、記載なし。

1980/10/25（土）晴

- ・ 午後バルブ操作。落ちつかない。
- ・ 夜バルブ締め。

1980/10/26（日）晴、夜一時雨

- ・ 朝バルブ開け。

1980/10/27（月）晴、曇

- ・ アーサーさんが肩が動かないというのでバルブ操作を交代。
- ・ 夜と朝やる。

1980/10/28 (火) 晴、曇

- ・ 朝バルブ開け。

1980/10/29 (水) 晴*

- ・ アーサーさんが肩が痛くて力が出せないというので、バルブ操作はエボさん*と二人交代でやる。忙しい。
- ・ 夜バルブ操作。
- * 瀬堀エーブル職員の通称。

1980/10/30 (木) 晴

- ・ 朝バルブ操作。帰ってから寝る。起きたのが10時、もう水は止まっている。

1980/10/31 (金) 曇*

- ・ 境浦(海軍)ダム、小曲*2ダム、時雨ダムの写真を撮りに行く。空っぼだ。時雨ダム*3はだだっ広いので、浅いところに降りられる。鳥がいた、1羽。
- * 断水作業、記載なし。
- *2 小曲 [こまがり]
- *3 ロックフィルアスファルトフェイシングダム(谷間を掘った岩石でダム堤体を造り、表面をアスファルトで覆い防水させたもの。)で、傾斜が緩やかな堤体に沿って水際まで降りられる。

18時間断水 8:30～16:00, 19:30～06:00

(給水時間 6時間 朝 2.5, 夜 3.5H 6:00～8:30, 16:00～19:30)

1980/11/1 (土) 曇

- ・ 今日から制限給水*強化。8:30にバルブを締める*2,*3。出勤してすぐだ*4。
- ・ ははじま丸交換便を出す。午後、はじま丸出迎え。
- *「水事情のお知らせ この節減率50%が予定のとおり達成されますと有効貯水量が0になるのは12月下旬となります」(小笠原村、1980b)。
- *2 断水時間 18時間 8:30～16:00, 19:30～06:00
(給水時間 6時間 朝 2.5, 夜 3.5H 6～8:30, 16～19:30)
- *3 現地ルポ「ダムの貯水量は、満水時の17.9%に減少しており、相変わらず、晴天が続いているもよう。もちろん制限給水を実施しており、朝6～8:30、夜4～7:30が給水タイムです。」(不可

延島：1980年 父島断水日記

解瓦版、1980)

*4 勤務時間 8:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 16:30 (冬期時間)

1980/11/2 (日) 雨*

- ・ 朝起きると雨、山がけぶっている。だいふ降ったようだ。20何ミリと言っていた。
- * おがさわら丸乗船 13時出航、内地出張。11/3 竹芝栈橋 17時頃着

~~~~~

1980/11/4 (月)

- ・ さっそく都庁\*へ行く。
- \* 有楽町にあった。

~~~~~

1980/11/11 (火)

- ・ 振興課*へ行く。写真ができていた *2 ので、振興課と衛生局水道課 *3 へ届ける *4。
- * 東京都総務局行政部小笠原振興課
- *2 10/31 撮ったフィルム写真、島では現像できないので持参、11/4 都庁内写真屋に出したものの。
- *3 東京都衛生局環境衛生部水道課、都下市町村水道事業の指導検査機関。
- *4 大雨で断水は一気に解消されたと聞く。

~~~~~

1980/11/16 (日)\*

- \* 竹芝栈橋 10時発おがさわら丸乗船、内地で生まれた子を含め一家 5人で帰島へ。

~~~~~

1980/11/17 (月) 晴、暑*

- ・ 父島は暑かった。皆、半袖だ。
- * 二見栈橋 14時過ぎ着、帰島。内地出張中に大雨があり、断水は解除されていた。

~~~~~

1980/11/18 (火) 曇、時々雨

- ・ 今夜、延期(二度目)になっていた大神宮のお祭り(夜の出し物と夜店)行う。雨が強く降ったり止んだり。娘二人を連れて歩いて行く。雨が強く吹きつけるので、演芸はやっていたが帰る。

~~~~~

1980/11/22 (土) 雨後曇、晴

- ・ バルブ制限を今日解除。これで制限給水も終り*。バルブを開けながら、Bさん、Cさんに料金納入の催促を言う。色々言って、もうちょっと待ってくれという。

- ・ 午後、役場へ行って仕事をする。
 - ・ 夜、雨。10 時近くになって、学校が広報。明日の運動会中止。
- *「制限給水に御協力ありがとうございました」（小笠原村、1980c）

（日記後記）母島から父島に異動した年に制限給水所管課での仕事、妻の出産、自動車運転免許試験等も重なり、大変な印象深い 1 年だった。

Ⅲ. 当時の父島

1. 天候

- ・ 55 年の天候の特色 本年の特色は、戦後最大の異常干天少雨の年といえよう。
冬は…雨量は概してやや多かった。
春は…雨量は前半少な目で後半（4 月）243.5mm を観測し、戦後 1 位の多雨を記録した。
梅雨期は異例の空梅雨に終わった。この傾向は 10 月一杯続いた。即ち干天少雨のため、5 月の雨量が 15.5mm、6 月も 10.5mm とそれぞれ戦後少雨 1 位を記録した。
夏から秋にかけても異常干天少雨傾向が続いた…このため水不足が深刻化し、節水、農作物の被害は戦後最大の規模となった。
初冬は…347.5mm の雨量（戦後 3 位の多雨）を観測した。このため水不足は一度に解消された。後半は…雨量は少ない。
1980 年の降水量 1037.5mm 過去 10 年の平年値 1220.7mm（小笠原総合事務所ら、1981a）
- ・ 1980/11/6 雨量 158.5mm 大雨（気象庁、2018）
- ・ 給水制限期間には接近してもらいたくない台風にも雨を期待し、スクールにも一喜一憂したが、全て期待外れだった。
- ・ 明治開拓期から昭和戦前期まで、干ばつ期には農家を主として雨乞いが行われてたという思い出から「雨乞い」が話題になったが、実施されなかった。
- ・ 小笠原諸島返還後（1968 年～）帰島したら、街中も畑もギンネム（延島冬生、2010）だらけで、雨が降らないだけでなく降った雨水をギンネムが吸い上げているという噂もかなり広まっていた。小笠原諸島復興事業で市街地の復興や二次林となった農地造成などが進み、ギンネム林もあまり目立たなくなるとその噂も何時の間にか消えた。

表3 1980年父島給水実績

区分/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月間給水量 (m ³ /月) *	18,692.6	17,523.6	18,603	18,339	19,995	14,720	11,815	11,924	12,558
1日平均給水量 (m ³ /日)	519	584	600	611	645	475	381	397	419
給水人口 (人) *2	1,442	1,462	1,395	1,413	1,449	1,469	1,477	1,318	1,436
1人1日当り給水量 (L/日/人)	360	399	430	432	445	323	258	301	292

* 給水量は測定金額を表す。

*2 給水人口は短期滞在者を含むが、表5 観光客数は含まれていない。

『小笠原諸島の概要』（小笠原総合事務所ら、1981b）から訂正抜粋。

※ 月間給水量を月の日数で割った値と1日平均給水量は必ずしも一致しない。誤写ではない。

2. 人口

- 『小笠原諸島の概要』（小笠原総合事務所ら、1981d）によると1980/4/1小笠原村人口（母島を含む。）在来島民137、帰島島民646、その他812人合計1595人、1980年国勢調査人口、父島列島（父島）1411人、給水区域内人口は1980/4/1住民基本台帳上、吹上谷以南9人を除いた1276人と短期滞在者（延島、1999c～）140人程度が加わり毎月変動する。国勢調査人口1411人は短期滞在者を個別にどこまで調査できたのか不明で、推定最小数値と考えるのが妥当であろう。毎月の推定給水区域内人口等は表3のとおり。

- 給水区域内地区別人口と特徴は次の通り。

父島字大根山	62(人)	自衛隊員のみ
西町	77	官公署、宿、飲食店、一般住宅
東町	97	飲食店、宿、一般住宅
清瀬	733	都住、職住集中域、宿、診療所、一般住宅
宮之浜道	15	国宿舎のみ
奥村	290	都住、職住、宿、一般住宅
屏風谷	2	一般住宅
合計	1,276	

3. 父島の水道

- 種類 父島簡易水道（現行と同じ）
- 主な水源（現行と同じ）

時雨ダム 70,000m²

小曲ダム 16,400m²

連珠 [れんじゅ] ダム 3,900m²

境浦 (海軍) ダム 3,400m²

第 2 水源、第 3 水源 (取水堰)

- ・ 浄水場 扇浦浄水場 (扇浦にあった。) (現行は二子に移転増強)
- ・ 配水池 奥村配水池 (現行と同じ場所)
清瀬配水池 (現行と同じ場所)
現行の小曲配水池は無し
- ・ 給水能力 1,100m³/日 (以上、『小笠原諸島の概要』 (小笠原総合事務所ら、1981b) を元に作成)
- ・ 給水区域

大村 (東町、西町)、大根山 (自衛隊基地)、宮之浜道の一部 (小中学校、電電公社、国官舎、都立大)、清瀬 (都住 1-5 号棟・2 戸建、職員住宅 1-7 号棟、教職員住宅、職住 4 号棟はプレハブ 2 階建て 2 世帯背中合わせの住宅が現 8 号棟前広場隅に 6 戸あった)、奥村 (都住 1-2 号棟、職員住宅平屋 20 戸)、屏風谷 *

* 1) 宮之浜道村分譲地は未だ無かった。

2) 清瀬都住 6 号棟以降は未だ無かった。清瀬職員住宅 8 号棟以降は未だ無かった。1 戸建の支庁長公舎があった。国官舎は郵政宿舎以外は未だ無かった。清瀬村分譲地は未だ無かった。

3) 奥村村分譲地は未だ無かった。村営住宅 2 号棟は無かった。高校は奥村高台にあった。

4) 屏風谷より南方の扇浦、北袋沢に住んでいる人はいたが給水区域外であった。

- ・ 水道メータ個数 約 600 基*。都住 240 戸、職住 (156 戸 + 12 室) の集合住宅が多く、個人住宅は 43 戸と小笠原諸島返還以前からのものが多かった (小笠原総合事務所ら、1981c)。

* 後出のチラシでは「父島の水道使用者 583 件」としている (小笠原村建設水道課、1980)。

4. 給水制限の経緯

- (1) 表 4 のとおり、給水制限期間は 110 日 (うち断水日数 59 日) となった。第〇次制限給水とされたのは第 1 次 - 第 3 次までだったが、第 2 次 - 第 3 次制限給水中に追加制限が次々とめまぐるしく加えられ、実質 6 次制限となり、事業従事者も島民も対応が大変

表4 ダム貯水率と給水制限（1980年父島）

月日	ダム貯水率(%)	給水制限名	目標制限率(%)	給水制限内容	給水制限日数	母島ダム貯水率(%)
6月26日	77.1					83
7月20日	60.3					
8月5日		第1次制限給水	15.0	給水管バルブ減圧操作	35	
8月19日	40					
9月9日		第2次制限給水	30.0	第1次制限給水 + 夜間8H断水 (22:00 ~ 06:00)	23	
10月2日				昼間断水追加 断水時間10時間 (14:00 ~ 16:00, 22:00 ~ 06:00)	5	
10月4日	22					78
10月7日				夜間断水強化 断水時間11時間 (14:00 ~ 16:00, 21:00 ~ 06:00)	8	
10月15日		第3次制限給水	50.0	断水時間15時間 (10:00 ~ 16:00, 21:00 ~ 06:00)	17	
10月22日	16.7					73.4
10月25日	16					
11月1日				断水強化 断水時間18時間 (8:30 ~ 16:00, 19:30 ~ 06:00)	6	
11月7日		第1次制限給水			16	
11月22日		制限給水解除		内、断水日数59日	110	

『村民だより』、『昭和55年度制限給水の記録』、『事業概要 昭和55年度』（東京都小笠原支庁、1980a）から作成

だった。

- ・ 制限給水と言うものの浄水量生産制限ではなく、あくまでもこの程度絞ればという使用量減少期待値である。削減率で、第1次(15)→第2(30)→第3次(50)%としていたようである。
- ・ 一方、10/22ダム総貯水量が父島16.7%に対して母島73.4%（小笠原村、1980b）と両島が同時に渇水に悩まされることはなかった（表4）。この後も父島だけ又は母島だけ制限給水という状態が何度か生じているが、母島では未だ時間断水したことがない。
- ・ 「有効貯水量が0になるのは12月下旬となります。」（小笠原村、1980b）と『村民だより』に掲載しつつも悲壮感はあまり無かった。水道管理者側も島民も11月～12月には秋雨が降り、時には長雨にもなるという経験に支えられ管理職以外は、意外に楽観的であったと思われる。「大神宮は降られる」と言う古老の言葉通り、大神山神社例大祭（11/3）頃は雨が降り一部演目が延期になった。

(2) 渇水対策の体制

- ・ 対策本部は設置されなかった。
- ・ 小笠原村役場建設水道課職員に役場他課職員の応援で対応。小笠原村役場母島支所に

母島簡易水道担当職員がおり、応援申し出があったが父島のみで対応した。しかし、時々母島の担当職員が父島に出張し、状況を把握していた。

- ・ 東京都小笠原支庁土木課副主幹（水道担当）（表 2）が村への指導助言、都水道関係部局との連絡調整、断水・通水作業に当たった。
- ・ 水道メーター検針から浄水場運転、水道指定工事店制度はあったものの宅地内漏水修理まで、全て直営で行っていたので、応援を仰ぐものの自分たちが主になるという意識で通常業務を行いつつ渴水作業をしていた。

(3) 広報

主に、毎月発行される小笠原村広報紙『村民だより』が主であった（下記）。父島には有線放送設備は無く、自動車の助手席からハンドマイクでの呼びかけ、各戸配布のチラシの他、CATV（木野、2000）による広報が夜間番組放映時に時々あった。手書きのタイトル文字を放映したまま CATV 局員に放送文を読み上げてもらっていた。当時、TV 放映は無かった（前納、2000）。

来島者に対しては、おがさわら丸下船時にチラシを配り、民宿に節水ポスターを配り掲示を依頼した。

- ・ 村民だより（小笠原村広報紙）1980 年 1 月～12 月 *
 - 1) 水道メーター周辺の清掃を!! No.135 昭和 55 年 2 月 29 日
 - 2) 水道週間のお知らせ No.136 昭和 55 年 5 月 31 日
 - 3) 水事情のお知らせ No.137 昭和 55 年 6 月 30 日
 - 4) 水の日・水の週間八月一日～七日 No.138 昭和 55 年 7 月 31 日
 - 5) 水事情のお知らせ No.140 昭和 55 年 10 月 4 日
 - 6) 水事情のお知らせ No.141 昭和 55 年 11 月 1 日
 - 7) 囲み文字 No.142 昭和 55 年 11 月 29 日
- * 月刊だが、発行日は一定していなかった。

(4) 制限給水の影響と効果

- ・ 制限給水全期間で心配されたのは、めったに起こらないが火事であった。給水区域での火災発生の場合、まず、海水、防火水槽等を使用してもらうことであったが、火災の連絡を受けたら直ちに給水本管系のバルブを開栓することにしていて、幸い火災は発生しなかった。

- ・ 第1次制限給水（本管バルブ操作による減圧操作）で心配されたのは、（プロパン）ガス湯沸器の不点火であった。当時は飲食店、民宿以外は殆ど設置されておらず、設置エリアも奥村、大村の低平地故影響はほとんど無かったようである。
- ・ 第1次制限給水前、大口需要者（短期滞在者を抱える建設会社の飯場、宿泊施設*、寮等）に以下のお願い文を配布した。

「 殿

父島の水道使用者 583 件のうち 33 件（5.7%）で使用量の 47% を占めております。大口需要者（1 カ月 100m³ 以上）の皆様方には、特に節水にご協力をお願いいたします。

昭和 55 年 7 月 25 日

小笠原村建設水道課」（小笠原村建設水道課、1980）

しかし、利用人数が減っただけなのか、節水に協力して使用量が減ったのかはよく分からなかった。

* 『小笠原諸島の概要』（小笠原総合事務所ら、1981f,g）によると、1981 年 4 月父島で宿泊施設（旅館、民宿）は食事付き施設 17、素泊 5、建設会社は 5 社あった。

- ・ 第1次制限給水 15% 削減の結果は確認出来た。観光客数最大（3725 人）の 8 月（表 5）を第1次制限給水で乗り切れた意味は大きかった。
- ・ 第2次制限給水（夜間 8H 断水）は 30% 削減を期待したが、そこまでの効果を確認出来なかった。夜間 8H 断水 + 昼間 2H 断水時間 = 10 時間を開始するが、効果が明瞭に現れず、直ぐに更に夜間断水 1H 強化、断水時間 11 時間、2 回の強化を追加してもあまり変わらなかった。追加措置を第 3, 4 次制限給水としなかった。
- ・ 小笠原村診療所（清瀬、現診療所向）は父島唯一の医療施設であり、断水対象としなかった。そのため、付近の個々の水道メータの止水弁を開閉していた。
- ・ 第3次制限給水（実質第 5 次）50% 削減を期待したが、断水時間 15 時間は、その後、断水時間 18 時間、給水時間合計 6 時間（実質第 6 次）とした。50% 削減できれば 12 月下旬まで 持ちこたえられると推測した。
- ・ 11 月に入り曇雨がちの日が続き、11/6 の大雨で第 3 次制限（6 日間）を第 1 次に戻したのち、11 月 22 日制限給水は解除された。
- ・ 時間断水は手探りで、これくらいの時間断水すれば、30% 使用量が減るだろうという見込みで第 2 次制限給水（時間断水）を始めた。見込み通りの削減量にならず追加制限をすることとなった。50% 減の第 3 次制限給水も同様であった。結果的には断水することによる効果は表 3 の通り、月間給水量、1 日平均給水量、1 人 1 日当り給水量いずれに

おいても、9、10月と急激に下がっている。断水時間を長くすれば水使用量がへることは明らかであるが、削減目標までには下がらないというジレンマであった。

- ・ 一般家庭で風呂を使わずシャワーで済ますという節水を心がけても、上下水道完備の生活で、炊事、洗濯、トイレ使用での節水は自ずと限界がある。時間断水になれば、給水時間中にそれらを済まそうという対応になり水の使用がなおさら集中した。

表 5 1980 年父島観光客数

区分／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12
観光客	408	1,111	626	2,268	3,725	680	349	386	236

注. 小笠原村村民課調べによる。

『小笠原諸島の概要』（小笠原総合事務所ら、1981e）から作成。

(5) 断水時間中の水使用

- ・ 断水及び通水作業は約 56 箇所（小笠原村建設水道課、1980）で、配水池のバルブ、本管のバルブ、都住、職住の高架受水槽のバルブの他、個々の水道メータの止水弁を開閉するものもあった。

夜間断水の影響をもろに受けたのは夜間営業する飲食店*で、水の汲み置きに苦労したようである。

*『事業概要昭和 55 年度』（東京都小笠原支庁、1980b）によると父島で営業許可飲食店 42、同喫茶店 5 とある。廃止・休業届を提出していないものも多いため、当時の電話帳（日本電信電話公社、1981）で飲食店名、飲食などの業種表記をみると 20 店ほどと思われる。

- ・ 夜間断水強化（21:00～06:00）した後も、夜間営業の飲食店が給水栓を開けて水を使っているというタレコミがあり、課長が昼間乗り込んでいった。店主に「水道をひねれば出るので使っているだけだ、だいたい栓が何処にあるかも知らない。」と言われ、止水栓を締めても水は止まらなかったことを確認し謝って帰って来た。その後、村の費用で止水栓を至急交換した。
- ・ 小笠原諸島返還後の水道事業は道路整備より先に給水第一で、材料不足や業者の技能等課題もあり、止水栓がメータの先にあるものも多く、その場合は周囲も断水しないと漏水防止工事やメータ交換等出来なかった。

(6) 本土から水を / 内地避難

- ・ 自衛艦で本土から水を浄水場に運ぶ計画も村内関係機関で検討された。扇浦の海岸か

ら浄水場沈殿池までの距離を測定し、運搬用水槽の製作も検討されたが、製作期間、費用などの問題で実施されなかった。

- ・ 赴任者の家族を内地に避難させることも話題に上がったが、当時は単身赴任者が多く家族赴任は少なく個々人の判断によったが、避難させた者はごく少数と思われる*。

* 家は日記 9/11、11/16 記載の通り、結果的に単身生活だったので家族は断水生活を体験しなかった。

(7) 住民の協力

村民は制限給水に協力的だった。1968年小笠原諸島返還後、戦前のダム等の復旧をし細々と水道を供給されてきたところであり、新たに時雨ダムが1976年完成、ようやく水道が安心して飲めると安堵していた。しかし、雨が降らなければ、安定供給できないことは概ね理解されていた。

IV. まとめ

(1) 制限給水 110 日（内断水日数 59 日）で小笠原諸島返還後最大の渴水を乗り切れた要因は、必ず降雨で解決するという考えで水道管理者側も島民も制限給水を実施・協力していたことであろう。又、給水範囲がコンパクトで、人口も 1,500 人程度と多くなく、小笠原諸島返還前からの住民、返還後帰島した島民、赴任公務員がまとまって住んでおり、かつ中層集合住宅の屋上高架水槽バルブ開閉により断水管理を徹底しやすかったことも大きい。

(2) 水道水は小笠原諸島の生活・産業に欠かすことが出来ない。水源は川をせき止めダムに溜まる水に依存し、それも天候次第であり、しかも沖縄県と異なり台風が雨をもたらすことは少ない。

給水制限は島民の理解と協力無くして出来ない。制限給水〇〇%と言うものの、給水量の削減率ではなく、島民の節水期待率に過ぎない。個々人の節水努力はもちろん大切であるが、大口需要者における節水対策を個々にきめ細かく見ないと制限給水率は達成できない。

海水淡水化装置が実用化され、2017年渴水にも臨時導入されたが、設置のタイミング・経費や人員等の問題があり容易ではない。ダムが主水源であることには変わりがない。

水源の状況は『村民だより』（小笠原村広報紙）冒頭に島別のダム総貯水率が毎月掲載されるようになったが、水道全般への村民の理解と協力を継続するため、水道週間中の

施設公開、『村民だより』などでの随時広報など一層の努力が求められる。

また、ダム上流における水源林設定・同林内における外来植物駆除等による水源の安定的確保、都営水道一元化など水道管理者の課題も大きいと思われる。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、小笠原村役場建設水道課に当時の資料（『昭和 55 年度制限給水の記録』）の閲覧等をさせていただいた。お礼申し上げます。

文 献

青柳裕介（1975-1986）土佐の一本釣り．ビッグコミック連載中．小学館

不可解瓦版（1980）現地ルポ．不可解瓦版 32 1980.11.6．不可解瓦版社

木野 康（2000）「小笠原 CATV」の盛衰とその存在意義．前納弘武（編）『離島とメディアの研究－小笠原篇』学文社，103-125.

気象庁（2018）各種データ・資料＞過去の気象データ・ダウンロード＞父島気象観測所データ

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/daily_sl.php?prec_no=44&block_no=47971&year=1980&month=11&day=&view=

前納弘武編（2000）『離島とメディアの研究－小笠原篇』学文社，335p.

日本電信電話公社東京電気通信局（1981）東京都伊豆諸島小笠原諸島電話帳 256-262

延島冬生（1998～）父島の山々＞飯森山

<http://bonin-islands.world.coocan.jp/yama-chichi.htm>

延島冬生（1999a～）小笠原現代日本語事典 本文＞村政確立

http://bonin-islands.world.coocan.jp/dialect_bn.htm

延島冬生（1999b～）小笠原現代日本語事典 本文＞都住

http://bonin-islands.world.coocan.jp/dialect_bn.htm

延島冬生（1999c～）小笠原現代日本語事典死語ポスト＞短期滞在者

http://bonin-islands.world.coocan.jp/dialect_dead.html

延島冬生（1999d～）小笠原現代日本語事典 本文＞内地

http://bonin-islands.world.coocan.jp/dialect_bn.htm

延島冬生（2010）小笠原諸島に侵入している外来植物の現状．植調 44-1, 5-16 （財）日本植物調節剤研究協会

小笠原村（1980a）水事情のお知らせ『村民だより』No.140 昭和 55 年 10 月 4 日

- 小笠原村（1980b）水事情のお知らせ『村民だより』No.141 昭和55年11月1日
- 小笠原村（1980c）囲み文字『村民だより』No.142 昭和55年11月29日
- 小笠原村（1980d）小笠原村職員配置表（一般職）
- 小笠原村建設水道課（1980）昭和55年度制限給水の記録1件ファイル
- 小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・東京都小笠原村（1981a）『小笠原諸島の概要』
13-20.
- 小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・東京都小笠原村（1981b）『小笠原諸島の概要』
69-72.
- 小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・東京都小笠原村（1981c）『小笠原諸島の概要』
68-69.
- 小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・東京都小笠原村（1981d）『小笠原諸島の概要』
32-45.
- 小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・東京都小笠原村（1981e）『小笠原諸島の概要』
184.
- 小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・東京都小笠原村（1981f）『小笠原諸島の概要』
186.
- 小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・東京都小笠原村（1981g）『小笠原諸島の概要』
179-180.
- 東京都小笠原支庁（1980a）『事業概要 昭和55年』11-12.
- 東京都小笠原支庁（1980b）『事業概要 昭和55年』52-53.
- 東京都小笠原支庁（1980c）東京都小笠原支庁職員配置表